

「校内研究」の生かし方

学校運営の真ん中に、教職員の専門性や児童生徒の学びを後押しする方策として、「校内研究」を位置づけています。

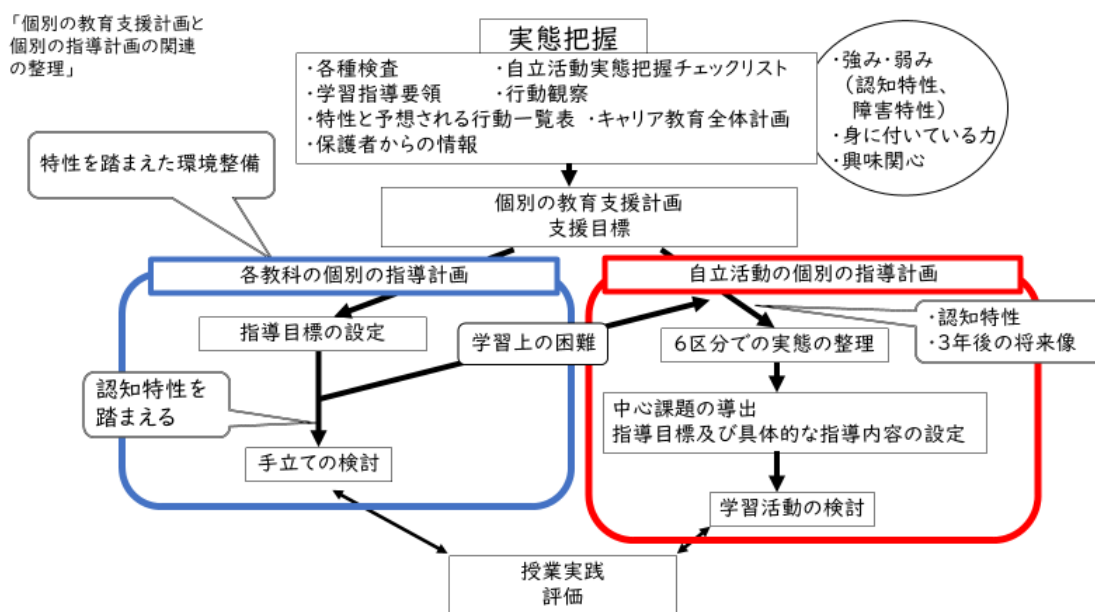
鶴南の研究主題は、「自立活動の指導の充実に向けた教師の力量形成と校内体制の整備」です。令和5年度から三か年計画とし、現在二年目の取り組みとなります。

「校内研究」をけん引しているのは研究部ですが、自立活動の指導は、「教育課程」を管理する教務部、「個別の指導計画」の P-D-C-A サイクルを管理する自立活動部、「個別的教育支援計画」の P-D-C-A サイクルを管理する教育支援部と、それぞれの業務が密接に関連しているため、4つの分掌部間の横断的な連携と共同思考を大切にしながら進めています。

校内研究は学校全体で取り組むものなので、「学校経営方針」の一つとして自立活動の研究に関する行動計画を掲げることで、校内研究が、先生方一人一人の専門性を磨くために欠かせないものとなるように取り組みを後押ししています。

最近では、経年研の研究授業も、校内研究に絡める形で主体的に自立活動を選択して力量形成につなげようとする先生方が増えています。とても嬉しいことです。それぞれの授業研究会においては、「よりよい学習指導案の検証」が共通の話題として挙げられ、協議を積み重ねた結果、「個別の指導計画」とリンクした新たな「学習指導案」の様式が整理されました。今年度から運用しています。先日は、新たな学習指導案で初任研の先生が研究授業を行いました。授業研究会では、「個別の指導計画、学習指導案、授業、学習評価の一連でブレない、筋の通った授業」と、自立活動部主任の先生の講評が印象的でした。他方で、教科の研究授業においても、既存の「学習指導案」の様式に、自立活動の区分「環境の把握」の窓から見た、子供一人一人の「情報処理過程(知覚―認知)」の特性等を整理して授業改善につなげようとする個人研究も見られるようになりました。とても素晴らしいことです。

このようにして、校内研究会で学んだことを基に、先生方一人一人が主体的に授業改善に取り組み、自律的に学び続けることにつながるような校内研究でありたいと思っています。



もっと自由な発想と挑戦を楽しむ境地で鶴南の教育を創る
- 「R6年度 学校運営方針」でめざす! -